

番号	3		事業名	県営ため池等整備事業			市町村名	東御市		路河川名	—		箇所名(ふりがな)	海善寺(かいぜんじ)	
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	<p>○海善寺ため池は、貯水量が62,000m³あり、下流の農地27.6haを潤す重要な農業用施設である。築造は、江戸時代の承応元年(1652年)で、築造からすでに350年以上が経過しており、老朽化により堤体の一部から漏水が発生し決壊が危惧される状況であった。決壊した場合には、下流の農地だけでなく人家にも被害が及ぶことが想定され、早急な改修が必要となっていた。加えて、ため池の維持管理面においても、毎年の取水管理や補修作業、降雨時の見廻りの回数が増えるなど、費用や労力が増加しており、管理者の負担軽減のための対応が必要となっていた。</p> <p>○事業開始前には、受益者108名に改修概要を説明し、事業費の1割を負担してもらうことにも同意を得て事業実施することとなった。</p>										事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)	評価			
											<p>○堤体改修にあたり、埋め戻し土は現場発生土を使用することにより土の移動を最小限に抑え、現場の植生の維持に努めたため、自然環境の変化は見られない。</p> <p>○漏水が止まったことにより、地域住民は安心して生活が出来るようになった。</p>	B			
事業目的	<p>○本ため池改修は、堤体の決壊等による災害を未然に防止することを目的としている。</p> <p>○堤体法尻からの漏水が著しい区間について、中心刃金工による遮水を行い、また、堤体が基準高を満たしていない区間については、盛土工を実施、護岸の基礎が露出している区間については、根継工を実施し堤体の安全性の向上を図る。</p> <p>○堤体以外については、余水吐を改修し洪水時の安全性を向上させ、また、取水施設を改修し取水管理労力の軽減と作業の安全性の向上を図る。</p> <p>○本ため池の改修により堤体の機能を向上させ、地域農業の安定と農村環境の保全を図る。</p>										施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)	評価			
											<p>○定期的な点検、管理、見廻りは、海善寺区が中心となり行っている。</p> <p>○草刈り(維持管理)は、地域住民も参加し年間に4回実施している。</p> <p>○取水施設の鍵は、区長と土木委員が所有し取水管理を実施している。</p>	A			
事業概要	当初工期	H22～H24	費用対効果(当初時)	2.33	事業費(千円)	財源内訳(千円)									
	最終工期	H22～H24	費用対効果(評価時)	2.44	上段:当初/下段:最終	国庫	その他	県債	一般財源						
	当初計画内容(主な工種)	ため池改修工1箇所(取水施設、余水吐、堤体工)			50,000	25,000	25,000								
	最終事業実績(主な工種)	ため池改修工1箇所(取水施設、余水吐、堤体工)			43,000	21,500	21,500								
事業期間の延長、短縮理由と分析	○事業実施において地元住民に十分説明を行い、計画的に事業を進め予定どおりの期間で完了した。										④地域住民等の評価	地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)	評価		
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	○入札差金等により、当初計画事業費より安価で事業執行した。										改善措置の必要性	○なし			
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成 D:達成したとはいえない)										評価				
	直接的効果(定量的・定性的)	<p>○堤体を中心刃金工、及び盛土工で改修し、護岸の根継工を実施したことにより、ため池の安全性が確保され「決壊するのではないか?」という不安がなくなった。</p> <p>○余水吐を改修したことで、洪水を安全に排水することが可能となった。</p> <p>○漏水を防止したことで安定した貯水ができるようになり、農業用水が安定的に供給されるようになった。</p> <p>○漏水の解消や余水吐の改修により、少雨でも行っていた見廻りが不要となった。</p> <p>○取水口の改修により、取水及び緊急時の放流操作が簡単、かつ安全に実施できるようになった。</p>										B	今後の取り組み及び同種事業への活用と課題	<p>○農業用ため池の改修については、農業用水の安定確保はもとより、地震や豪雨に対する防災上の観点からも事業に対する関係者の関心が高い。今後、適切な維持管理を行い、持続的な農業を推進する上でも重要な施設として保全を図っていく。</p> <p>○維持管理する管理者や農家の方に高齢者が多くなっているため、ペットボトルやビニール、刈った草などのゴミの片付けなどの維持管理が容易な施設(滞留ネット・除塵機など)となるように検討していく必要がある。</p> <p>○農業用ため池は、農業用施設であるとともに様々な多面的機能を有している。今後の事業執行にあたっては、自然との調和に十分配慮することが必要であり、一方で、安全施設を設置するなど個々のため池の状況に応じた計画とする必要がある。</p> <p>○堤体の漏水防止工事にあたり、刃金土以外の表土の埋め戻し土については現場発生土を使用することにより土の移動を最小限に抑えるとともに、現場植生の回復促進に努めたことにより、自然環境の変化を最小限に抑えることができた。</p>	
	間接的効果(定量的・定性的) ※事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	<p>○転落防止柵の設置等を含め、ため池本体の安全性の確保されたことにより、地域住民の安心感の向上が図られました。</p> <p>○地域の住民で集まり年間に4回の草刈を実施している。漏水があるため住民の不安意識が高まっていたが漏水が止まり、安心して作業が出来るようになった。</p> <p>○用水の安定確保により代かき期などの水管理が容易となった。</p>										所管課意見	<p>○ため池の改修により決壊等による災害を未然に防止するとともに、用水の安定供給、管理労力の軽減が図られるなど事業目的を達した。</p>	県の自己評価	A
										技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。				